

令和 5 年度事業報告書

1. 事業概況

本年度は新型コロナ影響が緩和され、従来どおり「医学研究奨励助成事業」・「患者の院内生活支援事業」・「附属病院運営助成」の助成事業を可能な限り積極的に行った。それらの助成事業を行うため、洗濯・病後児保育・外来者駐車場等の受託事業についても継続して行った。また、令和 6 年度実施の看護補助業務に係る一般競争契約があり、5 年間業務を受託することができた。

入院セットの受付・コピー・ファックス等の各種サービス業務についても継続して行い患者さん等へのサービスの向上に努めた。更に、病院内のレストラン・コーヒーショップについても、患者さん・病院スタッフ等へのサービスの観点から管理統括業務を行い、各施設の円滑な運営をめざした。

令和 5 年 3 月から開始した賃貸マンション事業も軌道に乗り信州大学の教職員等で入居率 100%を維持し、年間損益は増益となっている。

各事業とも経費の削減を図り最終的には 29,684,079 円の正味財産の増加となった。

2. 各部門の事業概況

①サービスセンター収益総額 18,677,460 円

フラワーコーナーの運営・入院セットの受付・コピー・ファックス等の各種サービス業務を行うとともに専門店・ラウンジの管理業務も行った。フラワーコーナーの売上は前年度比約 707 千円(13.52%)の減収となった。バス回数券販売及び病院内飲料自動販売機の管理業務は継続して行った。手数料関連収益は前年度比約 618 千円(5.53%)の増収となった。なお、弁当販売は令和 4 年 12 月から中止をしているため、サービスセンター収益総額は、弁当収益分だけ減収となっている。

②賃貸マンション収益総額 13,875,840 円

本年度から本稼働し戸数 18 戸の入居率 100%を維持、このため、前年度より 13,396 千円の大幅な増収となった。

③レンタル事業収益総額 12,430,244 円

病室内テレビ・冷蔵庫・ランドリーのレンタル事業を行った。

また、公衆電話管理の業務も継続して行った。全体として収益は前年度比約 75 千円(0.06%)の減収となった。

④受託事業収益総額 185,537,523 円

洗濯 洗濯収益は前年度比約 78 千円(2.1%)の増加となった。

病後児保育 長年勤務していたパート職員が退職したため新規パート職員を募集したが、応募者が見つからなく事業に支障を来している。
収益は、前年度と同額の 4,994 千円となった。

看護補助業務 看護補助業務を継続して行った。旭町精神科病棟の看護補助業務は引き続き行い収益は前年度比約 99 千円(0.25%)の増収となった。

外来者駐車場 立体駐車場を含めた円滑な運営に努めた。来院者の増加により収益は前年度比約 5,812 千円(7.36%)の増収となった。

職員駐車場 立体駐車場屋上階の職員駐車場員駐車場の維持管理業務を継続して行った。
受託収益は前年度比約 1,411 千円 (33.8%) の減収となった。

コインロッカー管理 継続して業務を行った。受託収益は前年度と同額の 1,062 千円となった。

メディカルネット 継続して業務を行った。受託収益は前年度同額の 330 千円となった。

入院セット 入院セットのレンタル受付業務を行った。収益は前年度比約 33 千円(0.71%)の減少となった。

⑤助成事業総額 3,660,000 円

(1) 医学研究に対する奨励助成 (医学研究奨励助成費 1,960,000 円)

学会・会議等への助成

病院への助成

(2) 患者の院内生活面に対する支援 (患者の院内生活支援費 1,260,000 円)

病室オーバーテーブルレンタル代の支援

(3) 附属病院の運営に対する支援（附属病院運営助成費 440,000 円）

精神科病棟への電動車いすレンタル代の支援

DMAT 設備支援

3. まとめ

本年度も厳しい事業運営であったが、諸経費の削減を図り、「医学研究奨励助成事業」・「患者の院内生活支援事業」・「附属病院運営助成」の助成事業を可能な限り行った。今後とも可能な限り助成事業を行いたい。そのためには各事業の収益の安定的な確保が重要である。現在の入札・企画競争を鑑みると、業務の専門性を追求するとともに効率化・合理化をより推進しなければならないが、限られた人員で大手企業に対抗するには限界があるため、今後は、大手企業と連携を模索しつつ、更に、財団独自の新規事業展開も視野に入れた利用者のニーズに則した安全で安心なサービスの提供を行い、大学・病院にとってなくてはならない存在をめざしたい。最後に当会の事業運営にご理解・ご協力頂いた病院スタッフ及び患者さんに対し深く感謝し報告とする。